

Yamakado News Letter



9時 5、6年生到着



ビンゴゲームで見聞きしたことを記録する3年生 Photo長澤



道に撒くチップを運ぶ背負子を持って出発する5年生



1、2年生は「秋見つけ」セミノハリセンボンを発見

永原小全校学習で児童93名が来訪

9月3日、恒例の永原小学校山門水源の森学習で、児童93名が来訪しました。送迎バスの関係で朝一番に5、6年生、続いて1、2年生が到着。3、4年生は午後からの訪問となり、各学年共おおよそ2時限分の滞在となりました。

学校と引き継ぐ会との担当者間で予め学習メニューが相談されており、それに添って引き継ぐ会の会員がガイドを担当しました。1、2年生のテーマは「あきみつけをしよう」。身近にあるものを見たり触ったりしながら、秋らしいものを探して沢道を往復しました。沢道の石段では段差が大きい場所もあり、そうした場所では特に小さい子はお尻を着いてからの段に足を降ろさないとうまく降りられません。そんな険しい道ですが、一生懸命前へと歩みを進めます。ちょっとした冒険のような復路になりました。

3、4年生は「山門湿原を知ろう」。3年生は担任の先生がマスを9個に区切った用紙にキノコ、赤い実などキーワード書いたものを用意していました。児童たちはそのテーマに沿って、例えば赤い実を探しながら歩くのですが、それを見つけると「あの赤い実の植物は何ですか?」と積極的に質問します。会員が説明すると、一生懸命に紙にメモをしていました。

5年生は「山門水源の森の生態系を守ろう」がテーマです。実際に保全活動として、養生用のチップを背負子で運搬してもらいました。6年生は「里山の自然と人々の暮らし」というテーマで、まずは研修室で昔この山で行われていた炭焼きについてスライドで学び、その後は沢道を歩きながら薬草や食べられる種類の植物を中心に人の暮らしとの関連で説明を受けていました。

また6年生は後日、午前中の約2時限分を使って、チップ運搬や古い防獣テープを剥がす作業など、保全活動をしてくれました。

メリケンカルカヤ 急激に増殖中！！

外来種のメリケンカルカヤは一昨年に大々的に除去作業を行ったため、昨年は問題になるような増殖は見られませんでした。しかしながら、今年は一転してかなり繁茂してしまい、その除去に手間がかかっています。会員の保全作業の日などは何人も人手を投入して除去作業にあたっていますが、まだまだ繁殖を抑えたという手応えは得られません。隣地の牧場跡でも生育が広範囲で確認でき、昨年までは見られなかった光景が広がっています。そのメリケンカルカヤの圧倒的な数を見ると心が折れそうになりますが、何とか湿原への進入を避け、湿原内の生態系が激変することだけは避けたいと思います。



9月7日の保全作業の日 黙々と除草 Pohot長澤



隣地牧場跡でも昨年までは見られなかった光景が広がっている



簡易製材機で丸太を角材に加工



老朽化した橋を架け替え

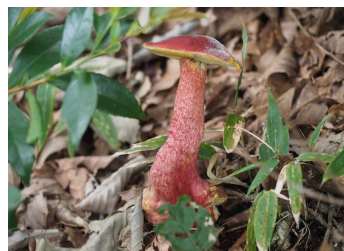
紅葉シーズンまでに間に合わせたい 橋の架け替え

沢道は2010年に開設されました。この道は炭焼き時代に使われていたのですが、炭焼き廃止後は長らく放置されていました。それを再整備して開通した道です。2013年に大々的に架け替えや補修をしましたが、その後6年が経過し再び老朽化してきたので、安全面を考えて架け替えをすることにしました。沢を遡上しながら順次架け替えを行い、何とか四季の森の沢に掛かった橋まで更新が出来ればと考えています。材料は間伐材や風倒木などを利用してしています。また作業には就労実践の貴島、前田の両名が協力してくれています。

今月の森の 様子



ツルニンジン開花 9月21日



今年初観察のベニイグチ 9月1日



小宇宙のような付属湿地の植物 9月13日